

## アメリカ・シアトル及びカナダ・バンクーバー公演について（報告）



期間 2019年10月5日（土）～14日（月）

訪問先 アメリカ・ワシントン州シアトル、カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバー

参加者： 銘苅良二（団長）、日出克・美音（プロミュージシャン）、内間司（特別顧問）

若太陽メンバー（社会人2人、学生・生徒等14人）の計20人

最初の訪問地、アメリカのワシントン州シアトルでは、参加者全員がホストファミリー宅で宿泊し、大学を始め、高校、日本語学校を訪問。沖縄の音楽、エイサー、獅子舞、和太鼓などを披露し、交流しました。

ワシントン州の沖縄県人会（OKK）には250世帯が加盟しており、歓迎会では沖縄芸能公演への期待が熱く伝わってきました。（県人会歓迎会及びシアトル公演）↓



在シアトル総領事の山田氏は、アメリカにおける沖縄の芸能文化に触れ、「今では日本人のコミュニティで、この公演を毎回楽しみにしている」と話し、関心の高さを実感できました。

訪れた学校では公演に加えワークショップを催し、太鼓やエイサーの鑑賞だけでなく実体験することによって、太鼓団体が立ち上がり、ワークショップの成果が表れるものとなっています。

(シアトル日本語学校) ↓



また、大学では子ども達に視野を広め世界に羽ばたくのを目指してほしいということで留学生の受け入れ体制に関する丁寧な説明もあり、若太陽メンバーの特に中高生は興味深そうに聞き入っていました。(大学での留学生受入体制の説明会及び交流) ↓





二カ所目の訪問地、カナダのバンクーバーの公演には、500人を超える来場者が詰めかけ、現地のプロギタリスト(中島有二郎氏)も参加し、会場全体が盛り上がる素晴らしいパフォーマンスを披露できたと思います。その他、100年以上の歴史がある日本語学校を訪れ、校長から日本語教師の人材確保に関する要請も受け、今後は、これまで以上に人脈の広がりが期待できるのではと考えています。



(カナダ公演の模様) ↑

両市では、沖縄県人会を中心とした熱心な世話役がおり、綿密な計画で協力者を募り、各地とも大ホールでの公演を行いました。その気持ちに御返しするべく、こちらからも琉球漆器や浦添織などを各学校や各総領事に贈り、文化的なつながりを深めました。売り上げについては、現地での交通費や食事代に充て、参

加者にとっても満足度の高いものとなったと確信しています。さらに、参加者の一人である日出克氏は出演者としてはもちろん、音響などの調整を含めた協力をしていただきました。それらは、数年に渡り継続してきた公演を通じ、沖縄からの参加者や現地の沖縄県人会との間に信頼関係を構築できているからこそだと思います。

全日程を終え感じたのは、シアトルやバンクーバーでの沖縄の伝統文化・芸能への関心の高さ、さらに沖縄から参加する学生の海外に対する意識改革や健康管理や保護者への日々の状況報告での心配りなどが見受けられた点でした。通常の観光旅行とは異なる責任感と緊張感があり、良い経験ができ、これらの活動の成果を多くの方に伝えていきたいと思いました。

(シアトル市内及び校外) ↓

